

## 医学研究センター

## 医学研究センター

松下 祥  
(センター長)

医学研究センターは以下の7部門で構成され、それぞれが異なる視点から研究を支援している。

- 1) 研究支援管理部門 : 外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 2) 知財戦略研究推進部門: 知的財産の管理やTLO活動に関わる。
- 3) 共同利用施設運営部門: 各種共同利用施設の運営に関わる。
- 4) 安全管理部門 : RI, DNA, 薬物, 環境, 動物, 感染など, 研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェロシップ部門 : 大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究主任部門 : 基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 7) 研究評価部門 : 研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

全キャンパス両学部から選出された構成員からなる運営会議を月に1度開催し、活動している。部門内での会議も適宜開催されている。

平成25年度は大学機関別認証評価を受審した。前回(7年前)とは異なり、研究活動の評価は大学の自主的基準に任されたが、概ね高評価を得ることができた。また、昨今の研究事情を反映して、大学院生を含む研究者に対しての研究倫理教育の必要性が叫ばれている。本学としても全学で取り組む体制を整備する。具体的には、研究者育成のための行動規範教育を標準化し、教育システムをe-learningとして全国展開する「CITI Japanプロジェクト」への参加を具体的に検討中である。これは文科省主導のプロジェクトである。このプログラムの受講は一部の公的グラントを受ける際に必須となっている。本学では、大学院教育と公的研究費管理体制にこの教育システムを組み込む作業を優先していく。

論文、学会発表などの情報は研究業績データベースに個人が入力したデータをベースとしてまとめている。25年度の人事考課(26年6月開始)からこのデータベースへの入力を必須とした。背景には常勤医師が筆頭著者となった英文論文数を正確に把握することが病院評価に直結するようになった昨今の事情がある。この情報の管理(質問への対応やパスワードの発行など)には研究評価部門があたっている。特許に関する情報は知財戦略研究推進部門が一元的に把握している。特許を含む知財活動状況については、本学は私立医科大学中第4位という高いレベルを維持している。

安全管理面においては、毛呂山キャンパス動物実験施設の動物感染対策が進行中である。また、すでに整備されている毛呂山キャンパス共同利用実験室(ベンチは予約制で、保管スペースなどは低価格の受益者負担で運用される)の利用者は増加の一途をたどっている。

文科省科研費の申請件数を増やし、資金獲得を振興するため、平成24年度から学内グラントの申請システムを変更している。具体的には、申請資格者を「前年度の文科省科研費に応募したが採択されなかった者」とし、日本学術振興会・文科省での審査結果も学内評価の参考にして学内グラントを配分している。そのかいあってか、前年度の文科省科研費に申請したが不採択となり、翌年度に学内グラントを得た研究者のうち数名がその翌年の文科省科研費に採択されている。26年度は、これまで運用されてきた「丸木記念特別賞」と「一般枠」に加えて、患者様のご遺志とご家族のご理解とによって支えられた寄付金で運用される「関口記念賞」が加わった。若手研究振興のため、今後5年間にわたり運用される予定である。